特別養護老人ホーム
『ミネルヴァあべの』の概要

1.『ミネルヴァあべの』の施設概要

（１）事業種別と定員

◆特 別 養 護 老 人 ホ ー ム　　定員70名

◆短期入所（ショートステイ）　　定員10名

【全室個室・ユニット型】

１ユニット１０名、７ユニットの定員７０名の住まいの場と、１ユニット定員１０名のショートステイで構成されています。

（２）入居対象者

要介護度３～５に認定されている方で、居宅において常時介護を受けることが困難な方。（要介護1・2の方は、居宅において日常生活を営むことが困難なことについてやむを得ない事由(特例要件)に該当する方）

やむを得ない事由とは？

①認知症や精神障がい、知的障がいにより日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁にみられて在宅生活が困難。

②深刻な虐待が疑われて心身の安全の確保が困難。

③単身世帯、同居家族が高齢、病弱で家族の支援が期待できず、周りのサービスや支援の供給が不十分である。

※短期入所については介護度に関わりなく、要介護認定により「要介護」「要支援」の認定を受けている方が利用対象となります。

（３）施設のコンセプト

『ミネルヴァあべの』が目指すのは、私たち自身や大切な人にも、ここで暮らしたいと思えるような“家”を創ることです。

（４）施設名称の由来

『ミネルヴァ』とは、**ローマ神話における『知恵』『医学』『工芸』をつかさどる神**で、平和の象徴でもある**ギリシャ神話の女神『アテナ』と同一**であるとも言われています。

当法人には、**ヘレンケラー女史のイニシャル文字「H・K」**にちなんだ**『叡知恵(えいちけい)』**という言葉があります。『叡知』とは、深遠な道理を悟る才知、優れた知性を言い、『恵』とは、天地の慈しみです。『叡知恵』とは、**森羅万象の情けと人間の知性の融合**という意味であり、これまでの歴史と人とのかかわりの中で育まれた知恵をさらに深化し続け、社会福祉として体現していくことを目指している私たちの想いを『ミネルヴァ』という名称に重ね合わせました。

また**『ミネルヴァ』は“千の仕事の女神”**とも呼ばれており、当法人が多様な地域ニーズに対応し、チャレンジしていくという想い、そしてここで活躍する職員がさらに専門職としての力量を高め、深めていってもらいたいという想いを込めています。

『ミネルヴァあべの』の基本理念

1.『ミネルヴァあべの』の施設方針

（１）施設理念

～生活に“楽しみ”と“喜び”を

人生に“生きがい”と“輝き”を～

『ミネルヴァあべの』では、ここで暮らす方々が、心穏やかに、楽しみや喜びに包まれて、いつまでも安心して毎日を過ごしていただきたいと考えています。

そして、地域で生活されている方々が、気軽に相談や必要な支援を受けることができるよう施設機能を充実・活用するとともに、誰もが暮らしやすい共生のまちづくりを目指します。

生活に“楽しみと喜び”を、人生に“生きがいと輝き”を感じてもらうことが、私たちの願いです。

（２）基本方針

1. ご利用者お一人おひとりの意思や人格を尊重し、自律的で生きがいのある豊かな生活を営むことができるよう、寄り添い、支えあうケアを提供します。
2. ご利用者やご家族が安心できる、安全で快適な生活環境を目指します。
3. ご利用者に笑顔でふれあい、心と心のつながりを大切にした、あたたかい信頼関係をつくります。
4. ご利用者の“今、この瞬間”を大切にするとともに、入居前後の生活が連続したものとなるよう配慮しながら、生涯全体を尊重した誠実な支援を提供します。
5. ご家族との信頼関係、地域の方々とのふれあいを大切にし、皆さまとともに地域の一員として関係機関と協働し、地域福祉の向上に努めます。

（３）ケアポリシー

『ミネルヴァあべの』の職員は、法人理念および施設方針の実現を目指して、『**ユニットケア**』と『**5つの喜び**』に基づいたケアの構築と実践を行います。

■ユニットケア

何故ユニットケアなのか？①

「ユニットケア」とは、自宅に近い環境で、他の入居者や介護スタッフと共同生活をしながら、入居者一人ひとりの個性や生活リズムに応じて暮らしていけるようにサポートする介護の手法です。

ミネルヴァあべのでは、入居者10人を一つの「ユニット」として位置づけ、各ユニットに固定配置された顔なじみの介護スタッフが、入居者の暮らしをサポートしています。

入居者の尊厳ある生活を保障していくために、一人ひとりの個性と生活リズムを尊重した「個別ケア」を実現する一つの手法として「ユニットケア」に取り組んでいます。

ユニットケア

何故ユニットケアなのか？②

（1）今までとかわらない暮らしができる場である

・自分の居場所がある
・家と同じようなつくりである → 暮らしを感じることができる
・当たり前の暮らしを最期まで送ることができる

⇒在宅生活の継続、自分らしい生活の回復と残存能力の活用

（2）認知症や重度化への効果を発揮

・今までと同じ見慣れた建物 → 見当識障がいへの対応
・最後まで自分のペースの暮らしができる
・顔なじみで安心なサポート、見守りケアの徹底 → 些細な変化を見逃さない

⇒落ち着いた環境の提供、きめ細やかなサポート

（3）家族が来訪・滞在しやすくなる

・個室でゆっくり滞在・宿泊ができる　　・顔なじみの関係で、来訪・滞在しやすい

⇒一緒に過ごす時間の増加、家族の新たなコミュニケーションの構築

５つの喜び

① 認められる喜び

一人ひとりがかけがえのない存在であり、その尊厳を大切にするとともに、自身の存在を肯定的に捉えていただけるようにケアします。これまで歩まれてきた人生や生活様式、暮らしのペースを尊重し、一人ひとりの暮らしの継続と、自分らしい暮らしの創造に共に取り組みます。自分の存在や意思が理解され、受け入れられ、承認されることで人は心の安定を図ることができます。また、プライバシーへの配慮など、意思や人格が尊重されることで、安心して生活を営むことができます。ご利用者の想いに寄り添うことが何よりも大切です。

② 出会える喜び

人と人が出逢い、繋がる喜び、自己の世界が広がる喜びを感じていただく場の提供であるとともに、様々な活動や体験、選択の機会を提供することで、生活の幅や可能性を広げていく喜びや感動を感じていただきます。

③ できる喜び

自分のことは自分でできること、それが自尊心につながり、主体性を促します。達成感や成功体験を積み上げていくことで、自信や有能感を持ち、自己効力感を高めていくようなケアの提供を心がけます。訓練ではなく生活の中の行為を継続していけるよう活動の機会を提供し、残存機能を活用します。

５つの喜び

④ 貢献する喜び

ご利用者の諸活動が他の人や社会とつながり、役割を担っていることを感じていただくように支援します。ユニットや地域社会の一員として自らの存在を自覚し、コミュニティの形成にたずさわる主体者として活動する機会を提供します。

⑤ 必要とされる喜び

ご利用者はケアされるだけの存在ではありません。必要とされていることを伝えられることで、生きがいや生きている意味をより鮮明に感じることができます。それはまた、自己の尊厳に繋がります。

これら5つの喜びを得ることで、人は自己を主体的にコントロールし、本来持っている力を発揮することができ（自律、自己決定・意思決定、自己実現）、自らの“生”や“幸せ”を実感することができると考えています。

我々『ミネルヴァあべの』の職員は、これら5つの価値に基づいてケアが計画され、実践されるよう取り組みます。